

令和 6年度予算見積調書

課室名：生産振興課
 担当名：花き・果樹・特産・水産担当
 内線：4382 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
P79	狭山茶DX推進研究事業			一般会計	農林水産業費	蚕糸特産及び	蚕糸特産研究費	茶業研究所費	
事業期間	令和4年度～令和8年度	根拠法令	なし			針路	12 儲かる農林業の推進	SDGsゴール	9
						分野施策	1202 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsターゲット	9-1, 9-2, 9-3, 9-4
1 事業概要 茶園の集積により経営の大規模化が進む一方、茶園の多くは散在しており、生育や病虫害の発生状況の確認が、茶業者の大きな負担となっている。 また、ICT技術が飛躍的に進む一方で、茶生産への導入は進んでいない。 このため、生育管理データ等の収集や解析にICTを活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施する。 ア 推進事業 149千円 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 6,395千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア 推進事業 149千円 狭山茶DX推進会議において、茶業者等と意見交換や技術の効果検証を行う。 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 6,395千円 ICTを活用した茶生産の実現に向け、試験研究を実施する。 (2) 事業計画 ア 推進事業 ICT活用環境整備 環境センサの設置推進、推進会議の実施 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 収穫作業の効率化 葉濡れセンサのデータ評価による摘採可否の判定 凍霜害回避 実証計画策定 害虫発生予察 画像データの解析精度、環境データ活用実証計画策定 防霜ファンの遠隔操作 活用実証結果の評価(1事例)					
2 事業主体及び負担区分 県(県10/10、国0)				(3) 事業効果 ICT活用環境整備 環境センサの設置15か所、推進会議の実施3回 収穫作業の効率化 葉濡れセンサのデータ評価による摘採可否の判定1モデル 凍霜害回避 実証計画策定1計画 害虫発生予察 画像データの解析精度90.5%、環境データ活用実証計画策定1計画 防霜ファンの遠隔操作 活用実証結果の評価1事例					
3 地方財政措置の状況 なし				(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 茶業者団体、メーカー、産地市町等と連携を進める。 【活動指標(アウトプット)】・環境センサの設置(10か所)・葉濡れセンサによる摘採可否の判定(1モデル) ・画像データの解析精度(90%)・防霜ファンの遠隔操作(1事例)□ 【成果指標(アウトカム)】・ICT活用(見込み100人)・葉濡れセンサにより見回り労力が20%削減 ・発生予察情報、環境データ活用によって5%収量増・見回り労力、消費電力が削減					
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×4人=38,000千円									
予算額		財源内訳						一般財源	前年との対比
決定額	6,544							6,544	△1,808
前年額	8,352							8,352	

事業内訳書

事業名	狭山茶DX推進研究事業		
単位事業名	推進事業	予算額	149千円

○歳入 (単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	149	104	
合計	149	104	

○歳出 (単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	131	108	2,480円×10人日 51,150円×2人日 3,182円×1人日
需用費	15	△4	文具類一式 15千円
役務費	3	0	通信運搬費 3千円
合計	149	104	

単位事業名	狭山茶産地におけるICT活用実証試験	予算額	6,395千円
-------	--------------------	-----	---------

○歳入 (単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	6,395	△1,902	
合計	6,395	△1,902	

○歳出 (単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
需用費	6,095	△1,902	消耗品費 5,099千円 燃料費 41千円 光熱水費 800千円 修繕料 155千円
役務費	300	0	通信運搬費 300千円
合計	6,395	△1,902	